

白ネギ産地化に向けた農福連携による仕組みづくり

1. 産地の概要

R5年度実績

- 【生産者数】20名
- 【栽培面積】3.2ha (R2比353%)
- 【出荷量】31.3t (R2比270%)
- 【販売額】13,066千円 (R2比256%)



白ネギ栽培ほ場



3kg段ボールに箱詰め

2. 取組の経過及び概要

(1) 白ネギ栽培は調整作業の労働力不足が課題
雲南地域（雲南市、奥出雲町、飯南町）の白ネギ栽培は、個人経営に加え、**集落営農組織の経営多角化品目としても導入を推進**。
しかし、収穫後の根・葉切り、皮むきなど調製作業に多くの時間が必要で、稲刈り作業とも重なる時期があり**労働力不足が課題**。

(2) 農福連携による調製作業受託の開始
R3年に、雲南市の生産者が、規模拡大に伴い自家労力では調製作業増加に対応できないと判断。近隣でピーマン栽培や木炭製造などに取り組む**福祉施設に、白ネギの調製作業を委託**。

(3) 調製作業の委託体制の試行と課題
R4年、JAしまね雲南地区本部は、この事例を基に管外JA施設から根葉切り機と皮むき機を借入し、試行的な取り組みとして**福祉施設へ調製作業を委託**。**委託した生産者は大幅な省力化につながったと好評**。
一方、福祉施設では1日当たりの処理量に限界があるため、機械の能力向上と作業スペースの拡大による、調製量の増大が喫緊の課題。



根葉切り機と皮むき機



福祉施設での調整作業

3. 取組の成果

(1) 調製作業の仕組みづくり
作業スペースの確保と作業効率向上のため、R5年に、選果場所をJA集出荷センター内へ移転し試行を継続。「水田園芸拠点づくり事業」を活用して高性能の根葉切り皮むき機を導入し、1日当たりの最大処理量は58ケースから100ケースへ大幅に改善。
また、調製作業は福祉施設の指導員と利用者の作業チームが従事することで工賃確保と就労支援活動をサポート。
この取組により**白ネギ生産者にとっては、労働力不足の対策として、福祉施設の利用者にとっては、手が空いた時期の仕事を先として、双方に有益**。



新規導入した根葉切り皮むき機



選果作業の様子

(2) 調製作業の負担軽減による生産拡大推進
持続可能な外部委託体制確立に向けた仕組みづくりが前進したことに伴い、**R5年から作業委託を希望する生産者全員への対応が可能**。
また、R4年から委託体制を活用している集落営農法人では、栽培面積拡大に向け、R6年に自走式収穫機の導入を計画。

施設利用者から一言

調製施設で多くの生産者の白ネギを共同選果すると、目が揃った選果になり、市場の評価が上がる。今後も調製施設の充実に期待する。

白ネギ生産者 長崎 勉 氏

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 白ネギ栽培機械体系モデル経営体の育成
- (2) 選果施設設置場所の確定と運営体制確立
- (3) 調製作業の設備充実と効率化でコスト低減
- (4) 美味しまね認証取得によるブランド力強化と販路拡大